

---

# ローテーション?ライフ

inpas

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

ローテーション？ライフ

### 【Zコード】

Z3940

### 【作者名】

in pass

### 【あらすじ】

僕の名は山伏聖。やまぶしひじり。

特徴といった特徴はないが、少し他人とは違うのではないだろうか。そう、僕は非日常こそが日常となる、そんな人生に巻き込まれた一人なのだから……。

これは少し変則的で愉快な日常を描いた物語だ。

# プロローグ\* トイレが必ずしもじめつ子から守ってくれると限らない

僕は鏡を見て固まっていた。

そこには驚愕のあまり目をこれ以上ないくらいに見開いた美少女がいたからだ。

その娘が僕だと気づくのに10秒かかった。

意外と早い? なにせ周りに誰も居ないんだ。嫌でもこの現実を見るしかない。

胸を見る。そこにはそれなりに発達した双丘があつたのだ。あつたのだ……。

「うそ!」思わず大声を出してしまい慌てて口を塞ぐ。静まり返った男子トイレから美少女の声が聞こえてきたら驚かれる筈だ。それは非常にマズイ。

しかし、まだ信じられない。下の方に手を入れる。そこに何もなかつた。なかつたのだ……。

「んんっ!」……失礼。変な所を触つてしまつた。

……これからどうしよう。服は幸いに上はTシャツ、下はジーンズだ。男モノだが。

うちの学校は方針が自由すぎるため、制服なんてものは無い。それどころか制服を着て来ると教師に声をかけられる。

しかも、人外大好き。人間なんて10%にも満たない。もつとも、異形は居ない。すべて人の形をなした者達だ。

それなりに常識もある。と信じている。

だからこそ、この姿で教室に戻るのはマズイ。髪も肩まで伸びている。本当に別人なのでごまかせないだろう。服も一緒だし。時間が経てば戻るかもしれない。そう思い立つたので僕はトイレの個室に入つておこにした。

(一時間後)

放課後のチャイムが鳴つた。僕の姿は戻っていない。  
さて、いよいよどうしようか真剣に考えていると、個室のドアがい  
きなり吹きとんだ。

「ヒー君ー、いつまでもトイレしてんだよー。」

女子が飛び込んできた。僕はさつきの言葉を取り消さなければならない。ここに常識なんて一ミリもなかつた。

「あ」

見つかっちゃった。

教室にて

この女、帝・輝。へんな名前だ。あだ名はカイザー。勿論人外。サ  
キュバスらしいが、こんなに胸の小さい奴もいるんだね。  
……さて、僕は今、その輝の謎のネットワークによつて再び集まつたクラスの全員に囮まれている。新手のいじめでしょうか。

「……………」

何故か、女々しく喋つてしまつた。

「 言ひてよいの？」

「めつねうもないーーー」

嗚呼、  
愚かだなあ。

ほんたうのこ

女性読者は可愛げ! やお何でもいいのか  
元々男だよ…

諦めます。

かくして、僕は女の子になつてしまつた。

プロローグ\* トイレが必ずしもこじめ子からやしてくれぬは壁りなに（後書き）

プロローグなので短めですが、感想を寄せて頂ければタイヘン嬉しいです。

続きものなのでちょくちょくチェックしてください。

ありがとうございます。

さて困った事が発生した。

寮に戻つたはいい。だが 着替えが男物しかないし、それに着替えようとしてルームメイトの男子が写真を撮るし。

で、今自分はそんなこんなで寮長室に来ていた。

目的は女子寮への移動だ。

「…………よろしいですか？」

寮長は自分と同じ幽霊族だ。彼はよく自分の相談にも乗ってくれていた。

「いいだろう。しかしお前も大変だな。またうまい酒でも飲むか？」

幽霊族は体质が人間と異なるので、こいつらができる。しかし、「…………いや、酒はやめてくれ…………。すまん……。忘れる…………」

彼はいつも自分から誘つておいてこいつら。彼自身酒には強いので他の理由だろう。

……あれ？ 身に覚えがないな……。

「…………どうしてですか？」

口調がどうも意識しなくても女性しくなる。そのうち覚えることで女っぽくなるんだろうか。

「…………いや分からないなら良い。じゃあな」

「…………はい。では、また。一緒に飲めるといいですね。」

そのときの彼は何故か顔を青くしていた。

さて、女子の寮長にはもう話は通してあるので、早速指定された部屋に向かう。

まだルームメイトが見つかっていない人がいたそうだ。

丁度いいのでその部屋にして貰つた。

扉を開けると

「えへへ、ひーちゃん！」

バタン！ 扉を急いで閉める。

ああ。頭が痛い……。

「ちょっとお！何でドア閉めるのよ！…」

ドカン！ガラガン！扉が吹っ飛ぶ。

「……輝。ドアを破壊するのは……やめてくれる？？」

まさか輝がルームメイトとは……。大丈夫だろ？

「うんうん！大丈夫だよ！…」

なんで心がわかるんだ。……というか、騒がしいな。

「わ～い！ひーちゃんがルームメイトだ～」

ピヨンピヨンとはね回っている。

輝はサキュバスより猫又のほうがお似合いだろ？

何故神はいつも適当に生命を創るのだろう。

嗚呼……。

「さ 早速お風呂入ろっか」

……へ？

## EP.1 上編\* や」は欲望の渦となる（後書き）

下編へと続きます。  
感想などをして下さって  
お楽しみに。

## EP 1 中編\* そ「は」欲望の渦となる（前書き）

お待たせしました  
中編です。聖の純潔は守られたるのか……！

## EP1 中編\* そこは欲望の渦となる

……私は湯船で沈んでいた。  
……一人称が変わった？ああ。

そりやあ、着替えの時にあらためて自分の姿を見たからだ。自分で言うのもバカみたいだけど、我ながら見事だったよ。こりやあ、アレだ。自分は女だともう認めざるを得ないよ。ちくしょう。考え方まで女みたいになつてきたよ。

で、湯船で沈んでいた。輝は少し遅れてくるようだ。  
むう。何故か気にならない。本当に女の思考になつてきたのかもしれない。

と、そんなことを考えていた時、

「ひーちゃん！お待たせ！」

ドガツとせっかくの木製の見事な扉が吹っ飛んだ。

「……ドア、壊すなつて言つたヨネ？」

「ひ、ひーちゃん？」

ああ、何か切れた。

「アハハハハハハハハ！輝の悪いところは頭かな？それとも耳？」

「ヒイイイイイイイイイイイイイイイイイ！……ひーちゃん！？怒つてる？おかしくなつたよ」

「怒つてない怒つてない怒つてな——」

あ、いけない。ヒトダマが出始めた。ほら、私、幽霊族だから。

「ひ、ひーちゃん？お願いだから、ほら、それ洒落にならないから！」

「無駄ね。言語能力がログアウトしたわ。」

何やらメガネの少女。何故メガネが曇らないのだろう。

「あ、憧（しよう）！丁度よかつた！……ひーちゃんを戻して……！」

「何言つてゐるのよ。あなたが自分でやりなさい。私は見てるほうが

楽しいわ」

そう言つてゐる間に聖がどんどん近づいてくる。

「なら方法を教えて……！」

すると、甘魅・憧（あまみしじつ）はニヤリと笑い、

「ええ。耳をかしなさい。」

「――」と輝に何か吹き込む憧。

すると、輝は耳まで真っ赤になり、だがしかし、

「ひーちゃんを戻すため一がんばるよーー！」

と、キスをしてきた。

……え？

EP1 中編\* そ「は欲望の渦となる（後書き）

ああ、すいません。  
まだ、聖の純潔は保たれています。  
よかつた……。

## EP1 下編\* そ「」は欲望の渦となる（前書き）

最近読む方にはかり進んでいて書くのが遅れました。  
誠にすいません。

キス。

ちなみに私はしたことがない。

つまり

「は、初めて……」

ああ、恥ずかしい……。

「え？ひーちゃん初めてなの？えへへ、私もだよ！」

アアアア！！やめてえ！！こっちのほうが恥ずかしいんだー！

「輝！その調子で舌も入れちゃいなさいーーー！」

こら憧！何余計なことを……！

「ん！わかったよ憧ーーー！」

「えー？じょ、輝、やめ

\*

\*

\*

\*

「氣絶しちゃったね…………」

ひーちゃんが氣絶してしまったので、ここからは私、帝・輝がお送りします。

「何なのこの子達…、ここまで純粋だと逆に怖くなつてくるわ……」

「? 何なの憧?」

「い、いえ…何でもないわ。それより輝、初めてのティープの味はどうだつたのかしら?」「

? 初めて…何だかとつても甘かつた。

「いいなあ…私もコッソリキスしようかしら?」

「うーん、でも、とつてもエッチな気分になるよ?」

私サキュバス。でも、それらしい体験は初めてだ。目を回しているひーちゃん。これはチャンスかもしれない。「でも寝込みを襲うのはなあ……」

「いつちゃいなさいよ。そのほうが萌えるから。」「萌えつてそうやつて手に入れるモノなのかな……? あと、そのメガネは何故曇らないのかな?」

「とりあえず運んで休ませたほうがいいわ。」「あ、うん。」

\* \* \* \*

「ん…んん…」

「ここはどこですか。そうですか、ベッドの上ですか。なぜ俺は服を着ていないのかなア?」

「夜這いよ。」

黙れ。私の上からだけ。

服を着るんだ。抵抗は許さん。

ヨシヨシ。…で、ここは何処だ。  
「私達三人の部屋よ。」

マジかよオイ。

## EP1 下編\* そこは欲望の渦となる（後書き）

次回、彼ら三バカはどうなるのでしょうか。  
聖の真操は守られるのでしょうか。

## EP.2 上編\* パズル魔法のアイテムです（前書き）

おわくなっていますません。

今回ま少し短めに。

朝。とても穏やかな朝。

ああ、私にもこんな静かな時間があるのかと思つ。  
なんせ周りはバカばかり。静かなんて程遠い……。  
歯を磨き、着替える。そして気付いた。

「ウソ!? パンツがどこにもない……！」

一週間前に女物をひとつおりそろえた。  
最初は慣れなかつた。苦労したのだ。  
やつと慣れたと思ったのに……。

こんな変態なことをするのはアイツしかいない。

\* \* \* \*

「さあ、憧。今なら怒らないから早く出しなさい。」「だから! パンツなんて知らないって!」「やだなあ憧憬。そんなわけないじゃないか。こんなことする奴は憧以外にはいないよ。」「なんでよー輝は! ? 何故疑わないの! ?」「輝は純粹すぎるからね。」

純粹すぎるだけにこいつひとときは安心できる。

「ん? 呼んだ? 」

向ひひで歯を磨いていた輝が寄つてくる。

「今朝私のパンツが憧によつて盗まれたのだ」「私じゃない！！」

「………憧だよ。」

「そつなんだ。憧、泥棒はダメだよ？」

「だから違うって！！」

「じゃあだれだよ。もう少し現実を見よつよ。」

「ああ！もう！！私たちで犯人を捜すわよ……！」

犯人は憧じやん？

「いいから来る！！」

ハイハイ。輝も来い。

「はいよ～」

\* \* \* \*

まずはお隣の部屋の二人。

「ほわああ～」

朝っぱらからナニしてるんですか。

「耳掻きよ

うん。見りやわかる。でも、そんな気持ちいいか？

「うん～」

「あなたもど～？~」

「え、結構。

「それよりひーちゃんのパンツしらない？」

「おおう。カイザー（輝のこと）。山ちゃん（聖のこと）のパンツ

？知らないよ？」

「わたしも～」

ほら、やつぱり憧だつて。

「…………いい加減にしないと殴るわよ？」

ハイ。すいませんチョーシこいてました。

「では次のところへ」

「面白そうね。ついていくわ。」

「うぬ。勝手にせい。

「ところでパーティがいっぱいです。入れ替える人を一人選んでください。」

「RPG!?」

大丈夫だろうか、このメンバー……

EP2 上編\* パートは魔法のアイテムです（後書き）

IJのEPで聖の文化の原因がわかります。  
お楽しみに～

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n3940u/>

---

ローテーション?ライフ

2011年11月21日12時04分発行